

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事 住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市伏見区下鳥羽東芹川町54番地		氏名 (法人にあっては、代表取締役) 京阪タクシー株式会社 取締役社長 永井 博		記名押印又は署名 _____ 電話 075 - _____	
京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。					
特定事業者の主たる業種 道路旅客運送業					
該当する事業者要件 <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))					
計画期間 平成 18年 4月 ~ 平成 20年 3月					
基本方針 「京阪グループ環境理念」を基本方針とする					
推進体制 「環境方針」を制定、環境問題に対する意識の向上と徹底を図る。					
年度ごとの具体的な取組及び措置 18~19 事務所 18~19 事務所 18~19 輸送車両 18~19 輸送車両	設備、対象、工程等 事務所 事務所 輸送車両 輸送車両	措置内容 空調・照明の適正化 (温度管理・不要な照明の消灯に努める) グリーン購入 (環境に配慮されたエコ商品の購入に努める) 車両更新時にアイドリングストップ車導入を継続する。実施率29% 適正な車両整備を行い、排ガスの低減や燃費の向上に努める。			
温室効果ガスの排出量等 排出区分 A 事業所等排出区分 B 輸送車両排出区分 C その他排出区分 排出合計	基準年度 (実績) (17) 年度 (二酸化炭素換算 (t)) 273 t 3247 t 0 t *1 3520 t	目標年度 (計画) (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t)) 310 t 3301 t 0 t *2 3,611 t	削減率 (計画) (%) 13.6 % 1.7 % 0.0 % 2.6 %	報告年度 (実績) (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t)) 290 t 2643 t 0 t *4 2933 t	削減率 (実績) (%) 6.2 % -18.6 % % -16.7 %
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 対策等の区分 森林の保全及び整備 府内産の木材の利用 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 グリーン電力の購入 削減量等合計	取組量等 (整備面積) ha (利用量) m ³ (売電量) kwh (熱供給量) GJ (購入量) kwh *3 t	(二酸化炭素換算 (t)) (吸収量) t (削減量) t (削減量) t (削減量) t (削減量) t (削減量) t *5 t			
差引排出量 (排出合計 - 削減等合計)	基準年度 (実績) *1 3,520 t	目標年度 (計画) (*2) (*3) 3,611 t	削減率 (計画) 2.6 %	報告年度 (実績) (*4) (*5) 2933 t	削減率 (実績) -16.7 %
特記事項 ・目標年度数値の根拠——平成17年に京都市に提出の平成16年度実績を基準にした削減計画に基づく数値。 平成19年度実績は営業用車両の稼働率の減少に伴い走行距離が減少 (前年比約20%減) したものであり、今年度は目標値を変更していない。					
連絡先 担当部署 担当者氏名 住所 電話番号 ファクシミリ番号					

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 注 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 注 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 注 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 注 5 「特記事項」には、平成2年度 (1990年度) を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。